

まず、同じように空中を飛んでも、ロケット打ち上げは、ボール投げとは違うことです。その違いは何かといえば、ボール投げは、ボールが、軌道に美しい弧を描いて空を飛んでも、かならず地上に落ちてくる。それに対して、ロケットは、軌道に乗れば、以後、自力で、運動することができる。この違いを、どう思われますか。

これは 初動のエネルギーのちがいののです。

最近山村の公立学校の先生が有名塾顔負けの教育成果をあげている、ということで注目されています。その先生は、はじめに、基礎を徹底的に、身に着けさせることだ、とされています。そうなのです。はじめが大切 はじめが絶対なのです。はじめに全てがある。

これは教えていて、なかなかやりにくい事です。よほどの知名度の高さで信頼を得ていなければできない。わかっていてもやらない。真の実力をつけるため、真に良心的に行っていることが、理解されずに仇で返ることがあるのです。

筑波博で、一粒の種から一万個のトマトの実を成らせた野沢氏に人々が驚きました。

氏は、「特別の種ではありません。普通の種です。」とおっしゃっています。

その育て方は、「まず、はじめに充分の養分を与えるのです。」と言っておられます。

これは、当たり前のことでありながら、世間の常識はそうではありません。特に人間を育てる子育て、また最近の教育が、間違った認識で行われています。

人の人格は、生後まもなくの間に、無意識のうちに形成されます。こんなことすら、最近になってから言われ始め、ソニーの井深大氏のような有名な方が言われて、人々はちょっと耳を傾けてきました。鈴木鎮一氏が・・・おや、すべての人間が母国語を話している！音楽も同じ！と鈴木システムの教育をはじめられて 70 年、世界中から注目をされて、世界の指折りの教育者として認められておられながら、日本ではあまり関心が向けられてこなかったのです。無名の私が言っても、聞いてもらえないなあ・・・とずっと思っていました。

チュウリップをはじめ、球根と言うものは、その中に、すべてが準備されているのです。

私の教え方の大きなことの1つは、「はじめに、最も単純な中で、決して難しさを感じないように、将来に必要な<sup>かなめ</sup>要をすべて、身に付けていただく。」というやり方なのです。

「習う」ということは、もうレッスンに通わなくなっても、1人で弾ける、一生、ピアノならピアノが弾ける人になる、そのために習うのではないのでしょうか。自立が必須です。

美智子妃殿下が結婚なさった時に、妃のピアノの先生のお話を新聞で読みました。

「美智子様は常にその段階で、完成されていました」と。それを読んだ時、美智様が良い生徒である、と同時に、この先生は良い教師だと、思いました。

ピアノを教えることをはじめてから、わたしは常に、「必ず！ピアノの弾ける人になっていただけるように！ロケットを打ち上げるように！」お教えしてきました。これが、ゆめのsalon教室の特色なのです。常識のレッスンと違うことの大きな1つなのです。

このことの「具体性」を、ピアノを教える先生に伝えたい、と思っているのです。

芸を技を学問を、身につける には、愛 と 工夫、そしてエネルギー が必要です。